

和光市協働事業審査委員会 会議録（要点記録）

日 時： 平成 26 年 11 月 18 日（木） 9 時 00 分～12 時 45 分

場 所： 和光市庁舎6階 602 会議室

出席者： 協働事業審査委員

【常任委員】

第 1 号委員（知識経験） 平 修久（聖学院大学コミュニティ政策学科教授）

庄嶋 孝広（市民社会パートナーズ 代表）

第 2 号委員（公募市民） 関口 泰典

第 3 号委員（市職員） 星野 賢（委員長・市民環境部長）

山崎 悟（企画部長）

【臨時委員】

第 1 号委員（提案された協働事業に関係する課所等の長その他職員）

- ・行政提案① ー市民スポーツを目指して～和光市運動場有効利用計画～

深野 素明（スポーツ青少年課 課長）

- ・市民提案① 和光のおもてなし・2020 年東京オリンピック、パラリンピックを盛り上げよう！

深野 素明（スポーツ青少年課 課長）

前島 祐三（政策課 課長補佐）

- ・市民提案② みんなで子どもたちを守ります！～(仮)下新倉小学校通学路のフィールドワークと通学路安全マップづくり～

藤原 啓（学校教育課 主幹）

- ・市民提案③ 和光市民歌体操プロジェクト

亀井 誠（長寿あんしん課長）

- ・市民提案④ 越後山パークライフプロジェクト

高橋 契将（都市整備課 課長補佐）

第 2 号委員（委員長が指名する職員） 吉田 絵美（協働推進ワーキング・職員課 主事）

事務局： 市民活動推進課 内田・中川・新坂・大竹

傍聴者数：18 名

1 公開プレゼンテーション・ヒアリングの実施について

事務局より説明

- ・行政提案 1 件、市民提案 4 件の応募があった。
- ・10 月 21 日に実施した第 1 次審査において、和光市協働事業提案制度実施要綱第 4 条に定める対象事業としての要件確認を行った結果、全ての提案が第二次審査へ移行することとなった。
- ・提案団体によるプレゼンテーション及びヒアリングの後、採択事業を選定するための審査会を行なう。
- ・プレゼンテーションは 15 分、ヒアリングは 10 分間とする。
- ・第 1 次審査において、審査委員から出された質問事項については提案団体に通知してあり、事前に回

答があった提案については、すでに審査委員に配布している。

- ・「協働事業提案採点表」を用いて審査を行う。採点は審査項目ごとに３点満点とする。
- ・審査項目は「協働事業審査要領」３(１)の１０項目（１）事業の必要性（２）公益性・市民サービスの向上（３）具体性（４）継続性・発展性（５）適正な予算（６）協働の必要性（７）役割分担の妥当性（８）協働の効果（９）事業実施能力（１０）事業に対する熱意とする。行政型提案事業の場合は、（１）事業の必要性（３）具体性を除いた８項目とする。
- ・採択事業の選定は、原則として、各委員の採点結果を集計し、採択候補事業を選定するものとする。選定に当たっては、提案された事業を所管する課所等からの意見についても考慮し選定する。ただし、協働事業審査要領に基づき、委員の平均点が行政提案型事業の場合は１６点、市民提案型事業の場合は２０点に満たない提案は、採択しないものとする。
- ・採択事業は、審議会の結果を受けて、後日市長が決定する。

２ 協働事業提案に係る公開プレゼンテーション・ヒアリング

行政提案① ー市民ースポーツを目指して～和光市運動場有効利用計画～

プレゼンテーション：和光市体育協会

■ヒアリング

- 【 平 】 提案書内の、協働の成果という項目において、「組織的スポーツ団体の充実強化」とあるが、今までの団体の取組みの中で、具体的な成功事例はあるか。また、今後の方向性を聞かせて欲しい。
- 【発表者】 過去に少年サッカーチームや、バレーボールチームが組織化された事例がある。今後は、現在和光市には無いレクリエーションスポーツのグループが組織化されて行くと良いと考えている。
- 【 庄嶋 】 現在、定期的にスポーツをしていない人をどのように集客する予定か。
- 【発表者】 当団体は１１月にスポーツ体験フェスタを実施し、延べ８８１名が参加した。そのうちアウトドアスポーツに参加した人は３３１名。この中で、テニスは参加者が多かったが、グラウンドで行ったソフトボール、サッカー等は参加者が少なかった。それらの参加者を増やしたり、子どもの引率として来る保護者の中で「スポーツをしていないけれどしたい」という気持ちのある人を狙って行きたいと思う。
- 【 関口 】 「和光市スポーツ推進計画」の中で、「するスポーツ・観るスポーツ・支えるスポーツ」という定義がある。この提案事業を実施する場合、「観るスポーツ」の側面からの、具体的な案はあるか。
- 【発表者】 一流アスリート等の招待を考えている。一流選手を目の前で観ることは、観る側にとって大変良い影響がある。開催時間、費用等について、行政と相談しながら行う必要がある。
- 【 山崎 】 行政提案という面で考えると、協働事業を行うことで、施設の稼働率向上、特に平日利用者の増加を期待するものだが、平日の時間帯は、誰に貸し出し、どの様に利用してもらうことを考えているか。
- 【発表者】 学校や幼稚園が終わった後の子どもたちに教室を受講してもらい、平日利用者数の増加につなげようと考えている。
- 【委員長】 事業実施までには、団体と市の協議が必要となる。講座の申込み等、団体と市がそれぞれ受けてしまうと混乱する可能性もあり、一本化する必要があると考えられるが、団体事

務職員のみでは、対応が困難と思われるが、どのように考えているのか。

【発表者】団体内で種目ごとの受付担当を決める予定。ただし、担当が独立して仕事をするのではなく、全体的なことは、役員会や会長に確認を取りながら進めていく。

【委員長】協働事業は、団体と市がお互いの良い部分を活かしてこそ実施する意味がある。お互いを尊重し、良い部分を出すことが出来る様、団体内の共通認識を持って欲しい。

【発表者】現在も月1度の会議を実施し、打合せを密にしている。この体制で、充分実施できると認識している。

市民提案① 和光のおもてなし・2020年東京オリンピック、パラリンピックを盛り上げよう！

プレゼンテーション：一般社団法人地域公益推進機構

■ヒアリング

【平】アンケート調査により、市民の意識調査を行なうとのことだが、事業として使えるものをピックアップするには細かい質問項目を設ける必要がある。しかし、それにより回収率が下がる傾向がある。どのような方法で行うか。

【発表者】回答者には、家で記入をしてもらい、解答用紙を届けてもらうとか、取りに伺う方法が良いと考える。詳細については行政と調整したい。

【山崎】当初提出された提案書の役割分担欄において、行政が担当する項目のほとんどは、団体がすべきことではないかと考えるが。

【発表者】行政には、ビームライフル体験会の会場提供等を主に担当して欲しい。

【庄嶋】陸上自衛隊朝霞訓練場は、オリンピックの会場として正式決定したのか。

【発表者】I O Cによる招致プレゼンテーションでは、陸上自衛隊朝霞訓練場が会場となっており、一般財団法人東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会の公式HPでも開催計画概要内に掲載されている。

【庄嶋】提案名には「おもてなし」とあるが、提案されているのは射撃競技に関わるのが中心である。協働事業としてやるには、実施のタイミングが重要となる。皆さんの団体が早くから動き出すのは大賛成であるが、現段階では市や「おもてなし」への参加が期待される市民は動きづらいのではないか。

【発表者】他協議の会場候補地として挙がっている川越市は、委員会を組織し既に準備を進めている。また、埼玉県のマスコット「コバトン」の射撃バージョンも登場し、県もオリンピックを意識した動きがある。

【山崎】協働事業としての最終的な成果指標はどのように想定しているか。

【発表者】パラリンピック東京大会に、市民の選手を1名輩出したいと考えている。

市民提案② みんなで子どもたちを守ります！～(仮)下新倉小学校通学路のフィールドワークと通学路安全マップづくり～

プレゼンテーション：NPO法人こども・みらい・わこう

■ヒアリング

【関口】フィールドワークの参加対象は誰か。

【発表者】新設小学校の学区内の保護者の他、地域の人にも参加して欲しい。日常そのエリアに住んでいる人は、保護者とは違う目線を持っているので、参考になる意見を出してもらえる。

【山崎】安全マップ完成した時には、マップで指摘した危険箇所が既に行政により改善済みである

等、リアルタイムの状況と整合性が取れなくなるということが生じる可能性がある。この場合、どの様に対応するか。

【発表者】行政との協働事業として行うことで、工事予定箇所等の情報共有ができる。情報を得ることが出来れば、他の場所を危険箇所として設定することも出来る。また、3年程度を目処に、マップを更新出来ればと考えている。それまでの期間に変更点があった場合は、月一度、校区単位で実施している「和光市地域防犯ネット（NPO法人こども・みらい・わこうが運営する組織）」の会合で、情報を共有することも可能である。

【平】提案書には、フィールドワークの参加者として、子どもが含まれていない。実際通学路を歩くのは子どもであるが、どう考えるか。

【発表者】まずは大人の目線で、保護者向けのマップを作成する予定である。しかし、今意見をいただき、週末等子どもが参加できる日程で実施することも検討したい。また、当該小学校を合わせると和光市には計12校の小中学校がある。今後、危機管理室や道路安全課等の関係課所と話していくことになるが、この提案事業が27年度に終了した後、1年に3、4件ずつ、3年間で全ての小中学校のマップを作成・更新できればと考えている。今回の事業でマップ作成のスキームが出来れば、他の学校にも応用することが出来る。

【庄嶋】提案書に出てくる「和光市地域防犯ネット」という取り組みがあるのが興味深い。これは団体の形態をとっているのか、それとも様々な団体が集う場か。詳細を聞かせて欲しい。

【発表者】ネットワークのことである。各学校の校区安全担当メンバーや、学校によってはPTA会長が集まり会合をしている。保護者として、地域防犯のために何が出来るかを議題として話し合っている。NPO法人こども・みらい・わこうは、和光市地域防犯ネットの運営主体である。

【庄嶋】了解した。なぜ、和光市地域防犯ネットが提案主体にならないのかと思えたため質問した。

【発表者】和光市地域防犯ネットは、ネットワークであるため、一定のメンバーではない。メンバーが一定しており、和光市地域防犯ネットの運営主体でもあるNPO法人こども・みらい・わこうが提案をした。

【委員長】フィールドワークには他の学区の人もしれと次につながりやすいのではないか。

【発表者】既に周知を行っている。

市民提案③ 和光市民歌体操プロジェクト

プレゼンテーション：NPO法人みんなで元気

■ヒアリング

【庄嶋】市民歌に体操を振付けるという案は、大変ユニークであるが、体操を普及する役割を担うメンターには、どのようなタイプの人に向いていると考えるか。

【発表者】明るい人が向いている。また、定年退職した男性にメンターになって欲しいという思いがある。同世代の女性は、抵抗無く外での交流を持てるが、男性はなかなか難しい傾向がある。男性が今までやって来た社会活動を切ることなく、次の行動に移すことができるようになるとう良い。

【庄嶋】メンターはどのような方法で発掘するのか。体操をつくるのとメンターの育成が同時に進むようだが、体操を実際にやってみることを通じて人材を発掘する方が良いのではないか。

【発表者】当団体の活動の中で関わりのある人たちから、私たち独自で発掘を進めていくことができる。また、今年度退職する市職員や消防団、他のNPO等呼びかけ、その中で発掘したいと考えている。

【 山崎 】 この事業は、まずメンターの発掘が出来ないと実施が困難である。最終的には受講者の介護予防につながることを目的だと考えられるが、どのように効果を測定していくのか。

【発表者】 講座開始前、後にそれぞれ筋力測定をする等して、効果を見ることが出来る。

【委員長】 この体操によって、どのように身体機能が向上するのか。また、この事業をきっかけとして、どのような効果が見込まれるのか。

【発表者】 障害が軽度のうちの機能の回復等が見込める。事業をきっかけにした効果という面では、介護予防事業をきっかけに自主サロンを実施したという成功事例もあると聞く。これは自助、互助のきっかけづくりとなる。

【 亀井 】 メンターの発掘と体操をつくる作業を同時進行で行う予定のようだが、これは厳しいスケジュールだと思われる。事業を進めるイメージを具体的に教えて欲しい。

【発表者】 理学療法士に相談をしたり、当団体が既に使っているストレッチや体操方法等を活用しながら作って行きたい。

市民提案④ 越後山パークライフプロジェクト

プレゼンテーション：越後山・緑まちづくり推進連絡協議会

■ヒアリング

【 庄嶋 】 公園は住民同士のコミュニケーションを図るのに適したツールである。提案されているイベントで活躍できそうな新たな人材の発掘や把握はどのようにするのか。

【発表者】 今まで、地域の農家が作った野菜を朝市で売ったり、食べ方の情報提供を行って来た。また、陶板を地域住民に作ってもらい、公園内のステージの壁に飾るなどの計画をしている。そういった取組みを介して新旧住民が交流することができるのではないかな。

【 山崎 】 公園は市民全体の財産である。地域外の人々にこの公園の取組みを見てもらうPR方法を考えているか。

【発表者】 現在、地域でイベントを行う際は、徒歩圏内のエリアにはチラシを配布している。協働事業となった場合は、必要に応じて市のホームページ等で周知をしていきたい。

【 山崎 】 予算書に謝礼が計上されているが、その詳細を教えて欲しい。

【発表者】 陶板の作成指導に対する謝礼等を考えている。

【委員長】 事業が採択された場合、平成27年度は協働事業としての実施になるが、28年度以降の展望を教えて欲しい。

【発表者】 餅つきや祭り等のイベントを通して、新旧住民の交流を図って行きたい。越後山自治会はエリア住民の自治会加入率が100%であり、交流の場がこの公園となる。できる範囲でこの活動を続けて行きたい。

3 採択候補事業について

* 行政提案 16点未満、市民提案 20点未満は採択しない。

行政提案① ー市民ースポーツを目指して～和光市運動場有効利用計画～

* 16点以上のため、採択候補とする。

合計点 134点

最終点（合計点を委員人数7人で割った点） 19.14点

市民提案① 和光のおもてなし・2020年東京オリンピック、パラリンピックを盛り上げよう！
*20点未満のため、採択候補としない。

合計点 136点 最終点（合計点を委員人数8人で割った点） <u>17.00点</u>
--

市民提案② みんなで子どもたちを守ります！～(仮)下新倉小学校通学路のフィールドワークと通学路安全マップづくり～

*20点以上のため、採択候補とする。【候補順位 1位】

合計点 189点 最終点（合計点を委員人数7人で割った点） <u>27.00点</u>
--

市民提案③ 和光市民歌体操プロジェクト

*20点未満のため、採択候補としない。

合計点 134点 最終点（合計点を委員人数7人で割った点） <u>19.14点</u>
--

市民提案④ 越後山パークライフプロジェクト

*20点以上のため、採択候補とする。【候補順位 2位】

合計点 149点 最終点（合計点を委員人数7人で割った点） <u>21.29点</u>
--

*採択事業は、審査会の結果を受けて、後日市長が決定する。

4 第2次審査について

■事務局から点数の発表（上記3 採択候補事業について参照）

■意見等

【委員長】結果報告のとおり、「市民提案① 和光のおもてなし・2020年東京オリンピック、パラリンピックを盛り上げよう！」「市民提案③ 和光市民歌体操プロジェクト」は20点未満のため、採択出来なかった。「行政提案① 一市民スポーツを目指して～和光市運動場有効利用計画～」は採択候補として決定する。また、「市民提案② みんなで子どもたちを守ります！～(仮)下新倉小学校通学路のフィールドワークと通学路安全マップづくり～」は採択候補として決定し、候補順位1位。「市民提案④ 越後山パークライフプロジェクト」も採択候補として決定し、候補順位2位となった。この結果を受け、後日市長が採択事業を決定する。

【委員長】提案された事業への要望及びアドバイスはあるか。

《行政提案① 「一市民スポーツを目指して～和光市運動場有効利用計画～」》

- ・協働事業は、団体と市がお互いの良い部分を活かしてこそ実施する意味があることを忘れずに事業を行って欲しい。お互いを尊重し、良い部分を出すことが出来る様、協働事業について、団体内で理解した上で、共通認識を持って実施して欲しい。
- ・受講者の中で、意気込みのある人を活動に取り込むようなことが出来ると良い。
- ・行政提案をした市としては、運動場の稼働率向上を目指して協働事業の実施を希望しているが、一方で団体の提案は、「一市民スポーツ」に重点を置いた内容のものだった。事業の実施にあたり、目的が共有されるようにして欲しい。
また、団体の提案では子ども向けの視点が目立つ内容であったが、運動場の稼働率を上げる観点でいえば、平日日中も動ける高齢者等の幅広い世代を対象に考える必要がある。

《市民提案① 「和光のおもてなし・2020年東京リリック、パ・リリックを盛り上げよう！」》

- ・ヒアリングの最後に、最終的な成果指標として「パラリンピック選手の育成をしたい」との発言があったが、そうすると「おもてなし」とは意味が違って来る。
- ・もっと市民の意識を把握できるような、効果的なアンケートを提案できると良い。
- ・団体が独自事業として早めに取り組むことはとても良いが、おもてなしのための協働事業を行なうには、市や市民の機運がもう少し高まってからにする必要がある。
- ・外国人に対するおもてなしは、大会開催の前後に行うものだと思う。提案はもう少し後でも良いのではないか。
- ・提案するには時期尚早という面と、提案の中で明確な目的が見えて来なかったという面がある。

《市民提案② 「みんなで子どもたちを守ります！～(仮)下新倉小学校通学路のフィールドワークと通学路安全マップづくり～」》

- ・通学路の安全マップということだが、通学路は校長が定めるものとなっており、当該小学校は開校予定の平成28年4月1日に通学路が定められることとなる。通学路が定められていない状態のため、どのようなかたちでマップを作成するか、今後協議が必要。
- ・通学路というより、付近の安全マップをつくってもらえると良いのではないか。
- ・団体のプレゼンテーションで、危機管理室、道路安全課に協力をしてもらい、今後は市内全小中学校の通学路安全マップを作成、更新したいという内容の発言があったが、これは団体の独自事業として行なうものという想定が発言か確認が必要。また、毎年、全小中学校から通学路の安全に関する要望を受けて、道路安全課等の関係課が対応をしてくれている。それとは違った市民の視点によるマップを作成する必要がある。
マップは平成27年度に作成されるが、開校は28年度。このタイムラグをどう埋めるか、プレゼンテーション内でも発言があったが、更に話し合いをする必要がある。
- ・平成28年度以降、協働事業での実施を希望しているか、それとも団体独自の事業を提案しているかを団体に確認し、担当課も今後の方向性を検討する必要がある。
- ・マップに防犯の視点も取り入れられないか。

《市民提案③ 「和光市民歌体操プロジェクト」》

- ・メンターの発掘に確実性が感じられなかった。また、事業を実施しながら決めたり進めて

いくことが多い。団体主導ではなく、他力的なことが多いように感じた。

- 健康体操自体は楽しく、高齢者に人気があるものなので、市民歌体操の普及の担い手となるメンターの確保について、もう少し確証のある進め方が示されると良かった。
- 役割分担で市の役割が多く、実施スタイルを想像することが難しかった。
- メンターを育てるには時間がかかる。メンターの土台が出来た後に提案をしてもらおうと、事業としての実現性が高くなるのではないかな。

《市民提案④ 「越後山パークライフプロジェクト」》

- 公園の維持管理やイベント実施は、計画を作り込んで進める必要があるが、提案だけでは見えて来ない部分があった。また、若い世代も参加できる取組みを実施する必要がある。
- ステージや樹木等は、完成に時間がかかる予定。その他の完成部分を先に開放し、事業を実施してもらうことは可能である。ただし、平成 27 年 5 月の検査完了後となる予定である。
- 地域を巻き込むきっかけづくりのモデル事業として実施して欲しい。
- 地域コミュニティが弱まっているという認識は総合振興計画にも表れているので、公園を通じて地域に関わる人を増やすモデルとなって欲しい。